

(FALDERMANN) は従来本州および九州より採集されていたが，四国における記録はなかったようである。

筆者は香川県琴平山で本種を採集したので，ここに報告しておく。

1 ex., 香川県琴平山, 4. Ⅷ. 1978

夜間，石燈籠の明りに来ていた個体である。

(〒700 岡山市幸町9-9)

イガブチヒゲハナカミキリを福島県檜枝岐で採集

窪田　勝信

福島県南会津地方のカミキリは，衣笠・藤田 (1977, 1978) により231種がまとめられているが，筆者はこれに含まれていないイガブチヒゲハナカミキリ *Corymbia igai* (TAMANUKI) を採集しているので報告しておく。

2♂♂, 福島県南会津郡檜枝岐, 7. Ⅷ. 1978

午後3時頃ノリウツギの花に飛来したもので，他にオオハナ，ブチヒゲハナ，フタコブルリハナなどのハナカミキリが見られた。

(〒235 横浜市磯子区洋光台2-12-25)

ヤマトヒメハナカミキリ九州亜種について

小笠原　隆

ヤマトヒメハナカミキリ *Pidonia yamato higeshiro* YAMAWAKI は，山脇好之 (1977)*) によって記載された九州特産の亜種で，原亜種と比べ雄ではあまり差異がないものの，雌では上翅の黒色部が発達し中央部の黒い円形の紋を囲む黄褐色の部分が前後に二分され，さらに基部に近い紋が会合線に沿ってL字型(左翅ではその逆)になること，触角の第9節$\frac{3}{5}$から第11節のほぼ$\frac{1}{2}$までが灰白色であることで区別されるという。

ところが，筆者が四国で採集した本種の雌の個体の中には上記の条件をほぼ満たす個体が2頭あり，しかも本州産と特に区別できない個体も同じ場所で採集している。この2頭は，高知県土佐郡工石山（くいしやま）にて1973年6月10日にコガクウツギの花上から採集したもので，1頭は触角第9節$\frac{1}{2}$から第11節$\frac{1}{3}$までが白色微毛で被われ，残りの1頭も第10節$\frac{2}{3}$から第11節$\frac{1}{2}$までが白く，しかも第9節の先端部$\frac{1}{5}$程が白くなっている。同じ産地の他の雌の個体はいずれも触角が一様に黒色であり，同じ産地においてこのように2つの型が得られている点や，特に *Pidonia* 属においては上翅の紋の変化がきわめて大きく，同定の基準としては使いにくいという点などから考えて，九州のヤマトヒメハナは別亜種として区別するよりも，型程度としてとり扱う方が適当と思われる。

*) 山脇好之 (1977): ヤマトヒメハナカミキリについて，昆虫学評論，**30**(1/2): 61-62.

(〒142 品川区旗の台5-11-26, みのる荘10号室)

スネケブカヒロコバネカミキリ愛知県に産す

松野　更一



スネケブカヒロコバネカミキリ *Merionoeda hirsuta* (MITONO et NISHIMURA) は本州，四国，九州，対馬に分布し，本州では中国地方と兵庫，和歌山，福井の各県で記録されている。筆者は愛知県下で行なわれた三河昆虫研究会の採集調査会において，本種を採集したのでここに報告する。

1♂, 愛知県北設楽郡富山村, 6. Ⅷ. 1978

採集地は天竜川支流の漆島川西岸急斜面の自然林で，リョウブの花に飛来した個体を採集した。本種の他には，ヨツスジハナ，コウヤホソハナ，クスベニなどのカミキリが多数訪花しており，同年の7月23日には同じ花上でアオカミキリ2頭とヒメヨツスジハナカミキリ1頭も得ている。

末筆ながら，発表を勧められた大平仁夫博士に心から感謝申し上げる。

(〒440 豊橋市花田町斉藤74)

埼玉県でフタスジゴマフカミキリを採集

平井　　勇

フタスジゴマフカミキリ *Mesosa cribrata* BATES は局所的な採集記録しかない種で，本州では長野県および福島県下の2ヶ所でのみ得られているようである。

筆者は埼玉県秩父郡大滝村三峰山で拾ったオニグルミ

枯枝より本種を羽化させたので報告する。

1♀，埼玉県秩父郡大滝村三峰山，(材採集) ～2. Ⅵ. 1978 (羽化脱出，埼玉県所沢市自宅)

三峰山へハイキングに行った際に，路上に落ちていた枯枝の樹皮下に食痕があるのを見つけ，直径3cm位の部分を持ち帰ったもので，他にはゴマフカミキリが1頭羽化した。

(〒359 所沢市狭山ヶ丘1-3002-11)

コバルトヒゲナガコバネカミキリの羽化例について

豊島亮司・加藤泰久

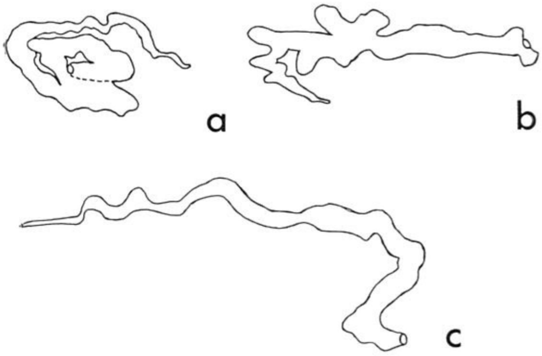
コバルトヒゲナガコバネカミキリ *Molorchus* (*Linomius*) *cobaltinus* HAYASHI は奄美大島の特産種であり，4月上旬頃にシイの花上から稀に得られているだけで，その生態については筆者らの知る限りではまったく報告を聞かない。

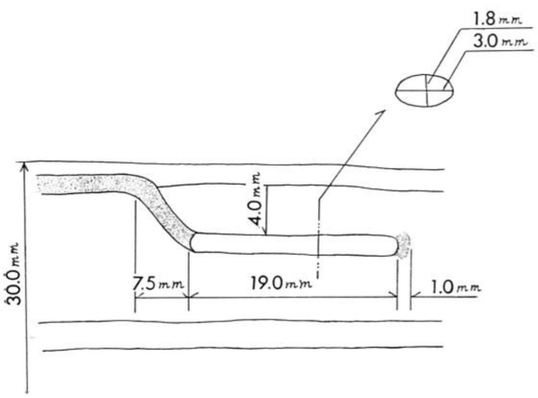
筆者らは，1978年7月に奄美大島を訪れた際に採集した枯枝から本種を下記の通り羽化させたので報告する。

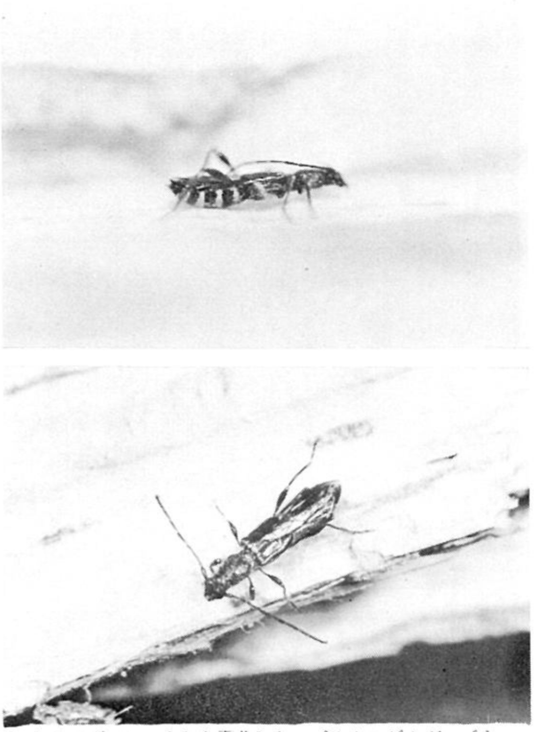
採集場所：奄美大島湯湾岳付近

枯枝採集日：1978年7月12日

羽化脱出日：1979年2月23日～3月14日 (15 exs.)







カラスザンショウから羽化したコバルトヒゲナガコバネカミキリ

Host: カラスザンショウ *Zanthoxylum ailanthoides* SIEB. et ZUCC.

採集者：豊島亮司・加藤泰久

幼虫はカラスザンショウ立枯れの枝(直径20～50mm) の樹皮下を図1 a～c のように食した後，辺材部 (細枝の場合は芯材まで食い入り蛹室を作り，反転し侵入口を向いて蛹化した) に蛹室を作る。

今回は，幼虫および蛹の良好な標本が得られなかったのでこれらの記載は省略するが，幼虫・蛹共に後日改めて記載発表する予定である。

末筆ながら，発表にあたり多大なご協力並びに写真撮影をして下さった湯沢宣久氏に厚くお礼申し上げる。

(豊島：〒462 名古屋市北区下飯田町4-11)
(加藤：〒461 名古屋市東区大曽根町101)

岩手県早池峰山麓のカミキリ2種

武智　昭一

筆者は本年 (1978年) の6月と7月に早池峰山麓にて採集を行ない，興味深い2種のカミキリを採集したので報告しておく。

1. ヒゲナガアメイロカミキリ

Obrium longicorne BATES